

第104回東北地方交通審議会  
船員部会 議事要録

平成29年 6月23日  
東北地方交通審議会  
船員部会事務局

# 東北地方交通審議会 第104回船員部会

日 時 平成29年6月23日（金） 15：30～

場 所 仙台第4合同庁舎 4階会議室

出席者 公益委員：長谷部部会長、高橋(真)部会長代理、  
佐々木委員（欠席）、森委員  
労働者委員：熊谷委員、高橋(雅)委員、津田委員  
使用者委員：齋藤委員、白幡委員、平岡委員

運輸局：畠山海事振興部長、阿部海事振興部次長  
和田船員労働環境・海技資格課長  
澤村船員労政課長、大友労政係長

議 題 (1) 管内の雇用等の状況について  
(2) その他

## 配付資料

資料1 船員職業安定業務取扱状況説明資料（平成29年4月分）  
資料2 新規求人・求職数（東北管内：3年対比）  
資料3 有効求人・求職数（東北管内：3年対比）  
資料4 新規求人・求職数（全国）  
資料5 有効求人・求職数（全国）  
資料6 有効求人倍率（東北管内）  
資料7 有効求人倍率（全国）  
資料8 「めざせ！海技者セミナーin仙台」開催プレスリリース  
資料9 新聞情報

(参考資料) 平成29年度版交通政策白書について

## 議 事 概 要

### ◎開 会

#### 【阿部海事振興部次長】

議事に入ります前に、委員の交代がありましたのでお知らせします。

労働者委員の正路委員の後任に熊谷委員が任命され、本日まで出席いただいております。ここで熊谷委員からご挨拶を賜りたいと思います。

#### 【熊谷労働者委員】

5月より全日本海員組合小名浜支部の支部長として勤務しました熊谷です。その前は函館にあります道南支部におりまして、北海道運輸局の船員部会に出席していました。前任の正路委員同様よろしくお願いいたします。

#### 【阿部海事振興部次長】

〔第104回船員部会の成立について報告〕

〔配付資料確認〕

### ◎議 事

#### (1) 管内の雇用等の状況について

#### 【長谷部部会長】

今回は休んでしまい大変申しわけございません。あらかじめ申し上げておきますが、次回もまた欠席させていただくこととなります。高橋委員に代理をお願いすることになると思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

では、早速議事に入りたいと思います。

お手元にあります議事次第「議題（1）管内の雇用等の状況について」事務局からご報告願います。

〔澤村船員労政課長から資料1～7に基づき報告〕

#### 【長谷部部会長】

ありがとうございました。

ただいまのご報告内容につきまして、ご質問、ご意見ございますでしょうか。どうぞ自由にご発言ください。よろしいですか。（「はい」の声あり）

管内の雇用等の状況については、低調傾向、縮小傾向、いまだ回復せずというお話ですね。

それでは、ないということで、ご了承いただいたことにして先に進ませていただきたいと思います。よろしいでしょうか。（「はい」の声あり）

(2) その他

【長谷部部会長】

続きまして、「議題（2）その他」に入ります。

まず最初に、資料8につきまして事務局からお願いいたします。

〔澤村船員労政課長から資料8に基づき報告〕

【長谷部部会長】

ありがとうございます。

ただいまの報告につきまして、皆様のほうから何かございますか。森委員、いかがですか。

【森公益委員】

海技者セミナーには本校の学生を毎年参加させていただいております。学生にとっては目的意識をまた新たに持つ機会になっています。開催していただき、ありがとうございます。

【長谷部部会長】

どうもありがとうございます。成功裏に動いているということです。

ほかになければ、ご了承いただいたということで次に進みたいと思います。よろしいですか。（「はい」の声あり）

では、次に情報提供、情報交換ということになりますが、労働者委員のほうから何かございますでしょうか。

【高橋（雅）労働者委員】

前回お話をしましたが、捕鯨関係について、今月16日に衆議院の本会議で「商業捕鯨の実施等のための鯨類科学調査の実施に関する法律」というのが可決成立されました。

この法律は、鯨類科学調査を国の責務として行うということで、内容的には、商業捕鯨再開を目指すこととし、再開のための鯨類調査の継続実施や予算措置、反捕鯨団体による妨害行為に対し、調査実施主体への支援や調査船への政府職員の派遣、外交措置のほか、妨害行為のおそれのある外国人の入国管理、企業へのサイバー攻撃に対する対応や鯨類科学調査以外のその他の鯨種を捕獲している和歌山・太地町などで妨害行為が発生した場合にもこの法律が適用されるということです。さらに、鯨食文化の継承や調査で得た科学的知見の国内外への普及なども盛り込まれているという内容です。

これから具体的な基本方針の策定に入るとということです。

以上です。

【長谷部部会長】

ありがとうございます。

これに関して、何かございますか。よろしいですか。孤立化があるかもしれませんね。

ほかにございませんか。

【高橋（雅）労働者委員】

あともう1点、去年に引き続き、東北地区の船員教育機関と海運・水産会社及びその関係者との懇談会を6月7日開催しました。学校関係は8校11名の先生方、会社・業界団体の方43名、運輸局から澤村課長に出席していただきました。

この懇談会の中では、特に遠洋船の定着率の問題、また、内航船、近海で操業する漁船関係でも若い方の定着率の問題が議論されております。

なお、組合としては、若い方々をいかに海上職のほうに目を向けさせるかということで、今後、学校に訪問してPR活動等々をしていきたいと思っております。

以上です。

【長谷部部会長】

ありがとうございます。

定着率というのは、どの程度なのでしょう。

【高橋（雅）労働者委員】

遠洋マグロの場合、宮城県北部船主協会の方で若い方々を乗船させていますが、大体半分くらい、50%ということです。去年は75%くらいあったようですが、今年は少し下がっているということです。

【長谷部部会長】

陸のほうも人手不足ですか。

【高橋（雅）労働者委員】

陸に比べ、海のほうは長期航海というのが一つのネックになっているようです。

【長谷部部会長】

沿岸のほうはどうですか。

【高橋（雅）労働者委員】

沿岸のほうは、それなりに定着しているというか、辞めたとしても違う船に乗り替わっています。

【長谷部部会長】

そうですね、なかなか大変なことですね。さまざまな形での取り組みをお願いしたいところがございます。ありがとうございました。

ほかにございますか。

【津田労働者委員】

八戸港の現状についてですが、記録的な不漁続きで、八戸の水産事務所の発表によると、5月の水揚げ量が前年度の同月比で63%減、金額については64%減ということで、大幅に落ち込んでいます。その大きな要因を占めているのが、5月は沖合底引き網漁船の水揚げが主体となるのですが、例年見えるスケトウダラ、小型のクルマエビが全然とれないため、このような記録的な不漁になったと紙面を飾ってお

りました。

乗組員もそれに伴った給料配分のため、なかなか厳しい状況が続いているということです。

以上、情報提供いたします。

**【長谷部部会長】**

ありがとうございました。津田委員のほうからなかなか大変な報告がございました。

漁業関係は全体として大変な状況なのですか。

**【津田労働者委員】**

そうですね、なかなか大変です。特に資源管理されているスルメイカ、スケトウダラ等々の水揚げ数量、金額がなかなか上がってこないというのが現実だと思っています。通例見えている魚が見えないということは、何らかの異常気象だったり、いろいろな形態が変わってきているという沖の船頭さんたちの声も聞こえたりしています。資源管理されているので、何とか回復すればという思いでいます。

**【長谷部部会長】**

ありがとうございます。

ほかにございますか。よろしいですか。（「はい」の声あり）

では、使用者委員のほうからお願いします。

**【白幡使用者委員】**

日本旅客船協会の定時総会で出された報告ですが、「海洋教育の推進について」ということで、海事産業、海運、造船、港湾は、4面を海に囲まれ、海洋国家である我が国を支える重要産業であるにもかかわらず、一般国民の認知度は低く、若者の就業先選択においても、他の産業に比べ劣後しており、海運においても若年船員の人材不足が生じている。この状況を打破するためには、海事産業の重要性を学校教育の場を通じ理解してもらうことが必要であるという考えから、平成27年9月8日、衛藤海事振興連盟会長、高木海事振興連盟副会長はじめ日本旅客船協会を含む海事関係7団体は、下村文部科学大臣及び赤池文部科学大臣政務官に対し、現在検討中の新学習指導要領に海事産業の重要性を盛り込んでほしい旨の要望を行っております。

その後、平成28年1月から、赤池議員を中心に国交省、文科省、内閣府、関係自治体及び海事関係団体からなる海洋教育推進プロジェクトを開始し、海洋教育に関する取り組み方法等について意見交換を行ってまいりました。この海洋教育推進プロジェクトは、これまで10回開催しており、その間平成28年9月には中学校、小学校、幼稚園を対象とする次期学習指導要領等に向け、これまでの審議のまとめが公表され、パブリックコメントの公募が行われたことから、日本旅客船協会を含む海事各団体は、「我が国が海洋国家であり、海事産業の重要性を次期学習指導要領に盛り込んでほしい。」旨のパブリックコメントを多数提出しております。

日本旅客船協会は、旅客船業界として意見を取りまとめ、各地区の旅客船協会を通じ会員各位にパブコメの提出をお願いしたところであり、その結果、平成29年2月に公表された学習指導要領案（幼稚園、小学校、中学校）には、「海洋」という文言が盛り込まれております。

さらに本学習指導要領案についても、パブコメの公募があったため、教育現場では通達レベルの学習指導解説書に基づいて子供たちへの教育を行っていることを踏まえ、日本旅客船協会ではできる限り学習指導要領解説書に具体的に「海洋」「海事産業」の内容を記述してほしい旨のパブリックコメントを海事各団体とともに再度提出しているところでございます。

また、当協会では、旅客船・フェリーは、我が国の有人離島と本土とを結ぶ唯一の公共交通機関であり、これにより我が国の領土・領海が維持できていること、大規模災害時には人・物の緊急輸送を行うという重要な役割を果たしており、さらにフェリーは、CO<sub>2</sub>排出量の観点からも地球温暖化防止対策に寄与しているところを教科書に記載してほしい旨、パブリックコメントを提出したところでございます。

このような当協会を含む海事関係団体の活動の結果、小学校、中学校の次期学習指導要領には、「海洋」「海上輸送」「交通」「通信」「運輸」等が盛り込まれております。

海洋教育の推進については、今後とも他の海事関係団体と連携をとりながら取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

ちなみに指導要領の改訂は、幼稚園、小学校、中学校が平成28年度、高校が平成29年度となっております。実施は、幼稚園が平成30年度、小学校が32年度、中学校が33年度、高校が34年度ということになっております。

以上です。

【長谷部部会長】

ありがとうございました。

それは、内航も漁業も同じですか。

【白幡使用者委員】

みんなそうです。

【長谷部部会長】

実施されるのは少し先、数年後のお話ですね。どうもありがとうございます。

これに関連して何かご意見等、補足意見等ございますか。

【森公益委員】

海員教育の学校では、例えば宮古の場合、6月に「ぱしふいっくびいなす」が宮古港に入港しましたが、そのときに地元の小学校の生徒を我々の練習船に乗せて、海から「ぱしふいっくびいなす」を見学させました。そこで海洋思想の普及ということでいろいろ説明を行ったりしました。昨年度も他の小学校の生徒を練習船に乗せていますけど、少しずつですがそういう努力といたしますか、そういう行事を行っ

ています。

**【長谷部部会長】**

ありがとうございました。

私から質問ですが、長期的な教育効果を狙うような政策とともに、マスコミを通じての短期的なPRとかはあるのでしょうか。それは考えられているのでしょうか。

**【白幡使用者委員】**

旅客船協会としては、「こどもの日」に全国の子供さんを旅客船に無料で招待したりとか、少なからずとも子供たちに海に慣れ親しんでほしいというような取り組みをしております。しかし、なかなか実を結ばないというのが現状です。

**【長谷部部会長】**

なかなか構造的に大変かなと思います。・・・。

**【熊谷労働者委員】**

なかなか難しいです。

海員組合としても、組合の予算を使用して、担当する大型カーフェリー・旅客船を貸し切って、小・中学生に体験乗船をさせています。今、後継者がいないという状況のもとで、長い目を見て、今言われたように子供のころから海に慣れてもらうことが大事だと思います。また、子供たちは今、魚を食べるのを嫌ったりするところもあるので、小さいころから海に目を向けさせるという発想のもとで、労働者側・使用者側とも精一杯後継者の確保ということを目指しているところです。船長さんからいろいろ体験したお話などを聞いた後、子供たちに「将来船に乗りたいですか？」と聞くと、ほとんど全員が手を挙げます。そこからせめて一人・二人でも船に乗ってもらえればと思いながらずっと続けている部分もあります。それだけ今後継者がいないという、切羽詰まっているという実態です。

**【阿部海事振興部次長】**

行政側としましても、7月に「海の日」というのがありますし、また、7月の1カ月間を「海の月間」ということでPR活動をしております。

**【島山海事振興部長】**

「海の日」の正午に各港内で一斉の汽笛吹鳴の実施、海に行って清掃等々の行事を行います。

**【阿部海事振興部次長】**

「海の日」、「海の月間」は全国的に取り組んでいます。

**【長谷部部会長】**

雰囲気は醸成されつつあるということでしょうか。いろいろ大変なことがあるかもしれませんが、皆さん、頑張ってくださいと思います。

それに関して何かございますか。よろしいですか。ほかのことでも結構ですが。

**【齋藤使用者委員】**

漁業のほうは、海員組合さんがおっしゃったように全般的にはなかなか大変な状



況が多いのですが、個人的といいますか、弊社の情報ですが、若干いいこともあったので、報告させてもらいます。

我が社で3年間部員として乗った船員が、今回海技免状を取得して、そして1等機関士として出航していったということで非常に喜んでおります。

それから、もう一人、水産高校を終わって2年目の船員ですが、今回の入港で思いがけず赤身マグロの水揚げがよかった。現在マグロ、特に赤身マグロは、非常に在庫が払底状態で相場がよくなっているため、ほかの船員もそうですけれども、非常に喜んでいて、笑顔がよかった。そういうのを見ると本当によかったなと思っ

ているところですが、一般的にはいろいろ問題はありますが、そのようないい部分もあるということ

#### 【長谷部部会長】

一筋の光明、全体的にそうなるとういんですね。ありがとうございます。

平岡委員はいかがですか。

#### 【平岡使用者委員】

最近のトラック業界ですが、運転手不足と長時間労働がかなり深刻な問題になっています。その中、国土交通省が標準貨物自動車運送約款を改定しました。従来は運賃だけの規定で、A地点からB地点まで運ぶとその料金は幾らという形でしたが、今回の改定では、積み込み、積み下ろし、さらに待機料を別建てとするということになり、これはトラック運送会社から見ればかなり画期的で、荷主に説明しやすく、運賃の改善につながるものと思います。運賃を改善することによって、運転手への待遇を改善することができるわけです。

内航の場合は、前回の会議でもお話をしましたとおり、なかなか運賃に転嫁できません。今週の水曜日に全国海運組合連合会の総会があり、そこで国土交通省の海事局長の挨拶の中で、同じように「荷主の系列化によって運賃の改善はできない。」との話がありました。

また、その挨拶の中では、内航海運の将来像を描く新たな内航ビジョンが策定されていて、間もなく公表されるということで、そのビジョンの中に盛り込まれている「船舶管理会社の活用」がまさに好適だというお話をされておりました。なぜそうなったのかよくわかりませんが、海員組合さんは船舶管理会社について何か情報はありますか。活性化につながるということで、従来から国土交通省でも推進しましたよね。

#### 【畠山海事振興部長】

推進しています。ご存じのように、通常の内航海運では、オーナーは自ら船を所有し、船員を雇い、オペレーターに貸し渡します。

一方、船舶管理会社というのは、船舶管理会社が船員を雇用し船を管理して、オペレーターに定期用船で貸し渡しをするものです。

これがなかなか進まないのは、オーナーは船を1隻しか所有していないところが多く、ある意味、一国一城の主みたいなものです。そのため、自分の船の管理を他人に任せるということに抵抗があることから、船舶管理会社はなかなか進まないということだと思います。

【平岡使用者委員】

船舶管理会社の活用となると、船会社というのは、結局オーナーにすぎないと思います。

【畠山海事振興部長】

そうなんです。

【平岡使用者委員】

船会社は何もやることがないわけですよ。ただ船を持っているだけで、言わば投資家ですよ。船会社じゃなくても、誰でも投資できる。要は、荷主が投資してオーナーになるということが増えてくると思います。そうすると、荷主と船舶管理会社があれば、船会社はもう要らないことになります。

【高橋（雅）労働者委員】

そのシステムが今の外航海運産業なんです。ファイナンス会社などそれなりの資産がある方が、船をつかって提供しています。

【長谷部部長】

小さい飛行機会社と同じようなものですね。船舶管理会社の活用を推進するという話なのですか。

【平岡使用者委員】

その船舶管理会社の活用が内航の活性化になるのか、船員対策になるのか、という疑問を感じています。

【畠山海事振興部長】

内航では、オペレーターというのは貨物を持っている会社であり、オーナーというのは船を所有し、船員を雇用して、その船を定期用船としてオペレーターに貸し渡しをする、実質はそのオーナーが下請け運送ということになります。しかし、貨物を持っている人がオペレーターで、荷主に対して責任を負うというのが内航の業態になっています。現在は、船員不足という問題があり、小規模のオーナーが個人で船員を雇うのはなかなか難しい状況なので、大きい船舶管理会社をつかって、そうすると、船員も大きい会社に入りたがるというようなこともあるので、船舶管理会社を推進しているということだと思います。

【長谷部部長】

それは船主さん方にとってもなかなか大変なことじゃないですか。

【平岡使用者委員】

大変なことなんですが、そういうことで今進んでいるようです。

【長谷部部長】

この件に関してはこれくらいでよろしいですか。なかなかシリアスな話かもしれませんが。そういうことがあるということで今後いきたいと思います。

ほかに何かございますでしょうか。皆さんよろしいですか。なかなか貴重なご意見をいただきました。

ありませんでしたら、今日はこの辺で閉じたいと思います。どうもありがとうございました。

次回の船員部会ですが、7月28日金曜日の午後3時半からということで、会場はここ4階会議室で開催いたします。

◎閉 会